

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
361	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
Influence of different types of alcoholic beverages on self-reported health status. 飲用するアルコール飲料の種類と自己申告健康状態との関連	
執筆者	
Theobald H, Hohansson SE, Engfeldt P.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Alcohol Alcohol 2003;38:583-8.	
キーワード	
健康感、アルコール飲料、健康状態	
要 旨	
<p>飲酒するアルコール飲料の種類別にどのように自己報告健康状態と関連するかを検討したものである。</p> <p>スウェーデンにおけるランダムサンプル 14,950 人を対象としてアルコール飲料の種類と健康状態との関連を 1996-97 年に調査した。</p> <p>11,606 人中 2,659 人は健康状態が悪いと回答した。ワインの消費者は健康状態が悪いとする危険度は 0.56 であった。これは、他の交絡因子、肥満度、教育水準、喫煙、身体活動等を調整しても変わらなかった。ワインの摂取量と健康状態が悪いと回答する関係は U 字型の関係を示し、少量から中等度のワイン飲用者で健康状態が悪いとする率が低かった。</p> <p>アルコール飲料の相違により疾病発症の頻度がことなることがあるが、アルコール飲料の種類そのものの影響かアルコール飲料と関連する社会経済状況が影響しているかは常に問題となる。</p> <p>研究者らは、ワイン消費が良い健康状態に保つと考えているが、この研究では、依然どちらかであるかは不明である。</p>	